

# 株式会社ジャパンエンジンコーポレーション 中期事業計画（2022年度～2024年度）

2022年 5月 12日

株式会社ジャパンエンジンコーポレーション

（証券コード：6016 / 東証スタンダード）



## 1. これまでの振り返り

- (1) 会社沿革
- (2) J-ENG発足後の業績推移、取組み概要

## 2. 事業戦略

- (1) 当社の目指す方向性
- (2) 当社を取り巻く環境
- (3) SWOT分析
- (4) 戦略展開ロードマップ
- (5) アクションプラン

## 3. 業績目標（今後の成長イメージ）

## 4. ESG経営深化に向けた取組み

## 5. 株主還元

## 6. (参考) 会社概要



上：エンジン製造工場内

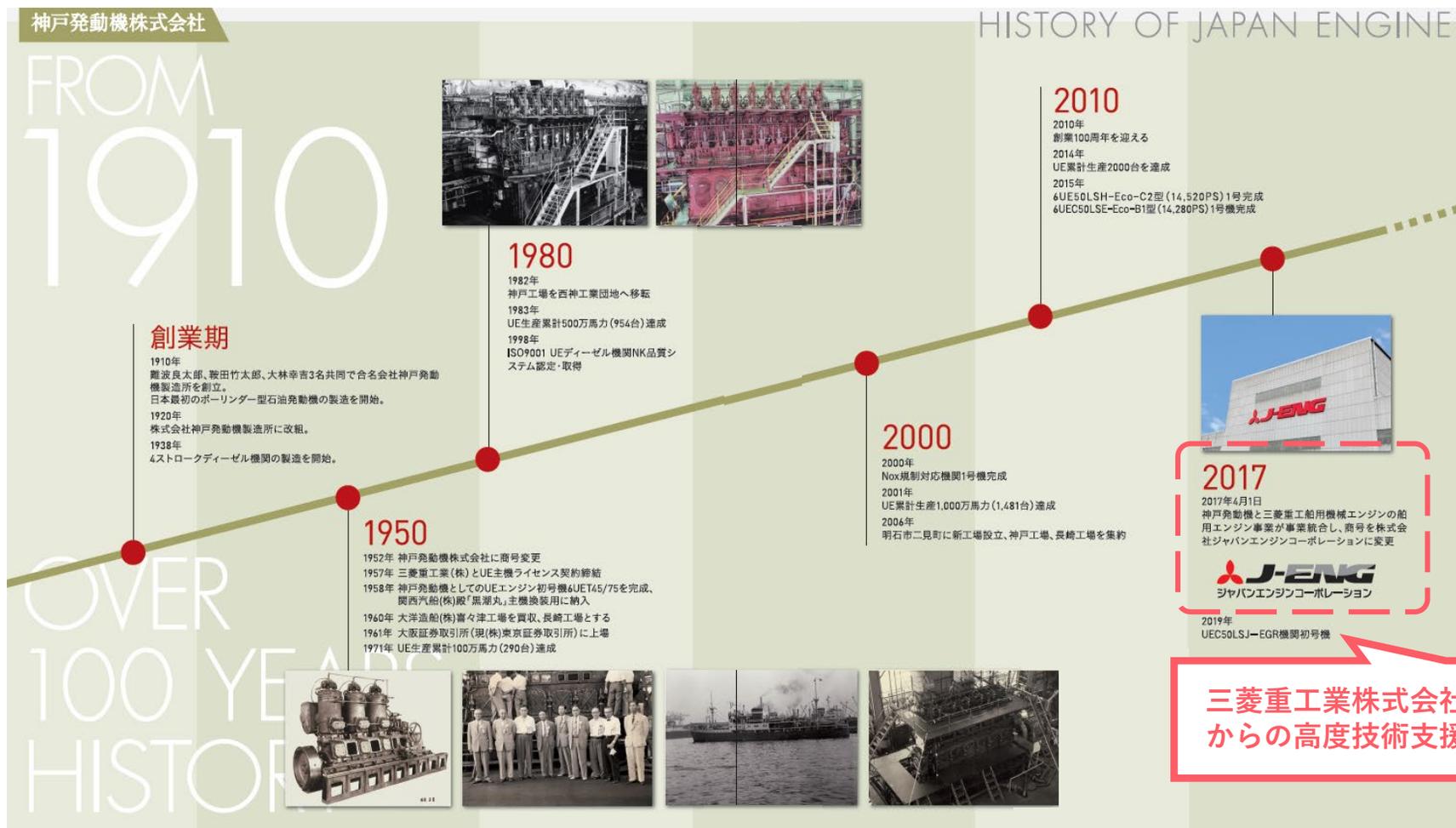
中：42LSH型機関

下：50LSH型機関



# 1. これまでの振り返り (1) 会社沿革

## 2017年4月 三菱重工船用機械エンジン株式会社と神戸発動機株式会社が事業統合し、株式会社ジャパンエンジンコーポレーション (J-ENG) 発足



# 1. これまでの振り返り（2）業績推移・取組み

## J-ENG発足後の業績推移、取組み内容

新たな成長ステージへ

会計年度(FY)	2018	2019	2020	2021
売上 (百万円)	11,509	10,151	11,687	13,164
営業利益 (百万円)	222	211	429	576

2022～

テーマ		PMI推進	攻めの経営
主要 施策	方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業構造改革の推進</li> <li>・拠点統合推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主機増産体制構築</li> <li>・積極的な研究開発投資</li> <li>・業績伸長に向けたM&amp;A展開</li> </ul>
	具体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務オペレーション見直し</li> <li>・本社エリアに新社屋・新倉庫を建設 神戸地区を本社エリアに集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・差別化新技術を搭載した新製品の市場投入連射 LSH・LSJ型機関、EGR/SCR</li> <li>・工場設備の増強</li> <li>・シンパツサンライズ社を連結子会社化</li> </ul>
成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営基盤の強化</li> <li>・固締まりの体制に転換</li> <li>・厳しい不況にも耐える企業体質を構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上/利益増</li> <li>・環境規制対応技術の蓄積</li> </ul>

中期事業計画策定

※写真左から  
新社屋、新倉庫、LSJ型機関



## 2. 事業戦略（1） 当社の目指す方向性

### 経営理念

#### 1. 伝統と革新スピリットを融合

「永くに亘る歴史と伝統を基盤にし、革新的スピリットの融合で、機動的かつ柔軟な経営を推進する」

#### 2. 社会と業界の発展に貢献

「環境対応と経済性を両立した技術と品質向上への飽くなき挑戦で、社会、海運・造船業界の発展に貢献する」

#### 3. 総合力を発揮し、世界へ飛躍

「社員の力を結集し、開発・設計・製造・販売・サービスの一貫体制で、世界に伍していける企業を目指す」

#### 4. 無災害職場の確立

「危険予知の徹底と闊達なコミュニケーションで、災害ゼロを目指す」

### ビジョン

“世界的視野に立ち、伝統と革新を融合させ、日の丸船用エンジンをお客様とともに育て、次代を拓く”



5UEC50LSJ型機関

## 2. 事業戦略（2）当社を取り巻く環境

### ① 船舶輸送の必要性



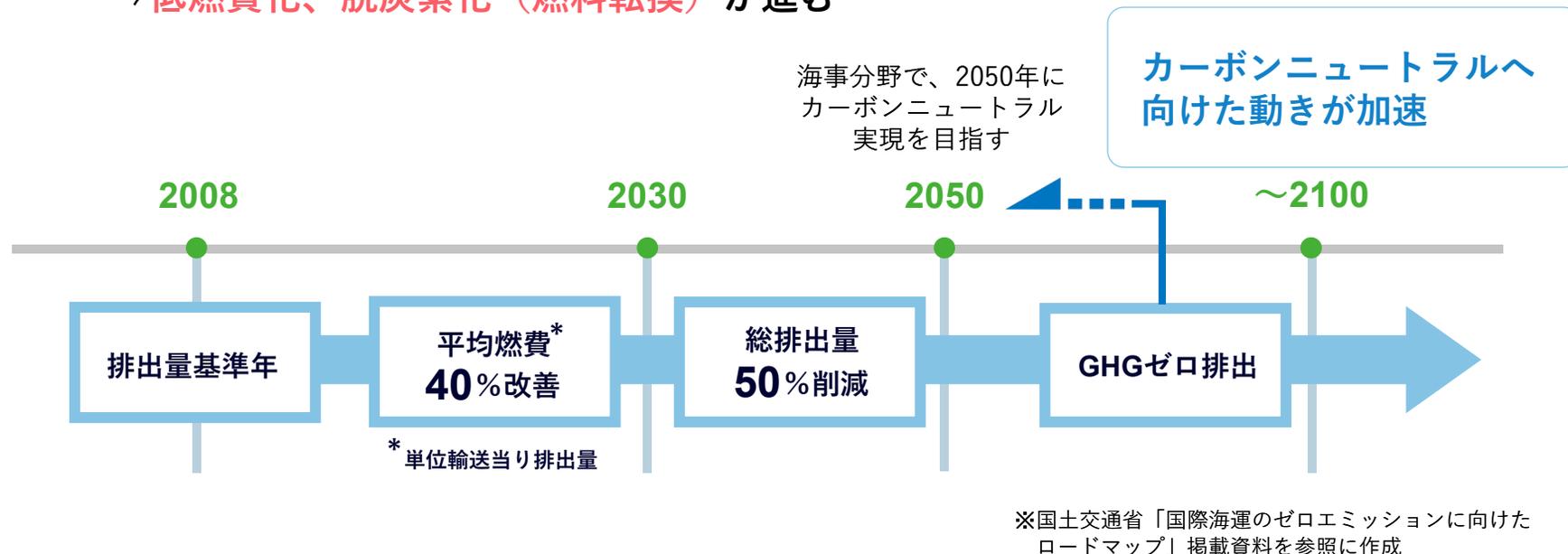
- ・世界規模で経済が結ばれる中、資源・完成品等を地域間でトレードする需要は消失することはなく、中でも、重量・距離当たりの輸送コストが安価な海上物流は、今後とも重要な輸送手段のひとつとして位置付けられる
- ・海上物流の根幹は、大型船舶による輸送であり、当社は大型船舶向けに、船舶用エンジンを供給することで、物流網の一翼を担い続けている

## 2. 事業戦略（2）当社を取り巻く環境

### ② 脱炭素、環境保全への取組みが加速中

#### ◎炭素燃料の使用量削減

⇒ **低燃費化、脱炭素化（燃料転換）** が進む



#### ◎エンジンからの排ガスに対する規制

**窒素酸化物排出規制（NOx規制）** は3次まで強化

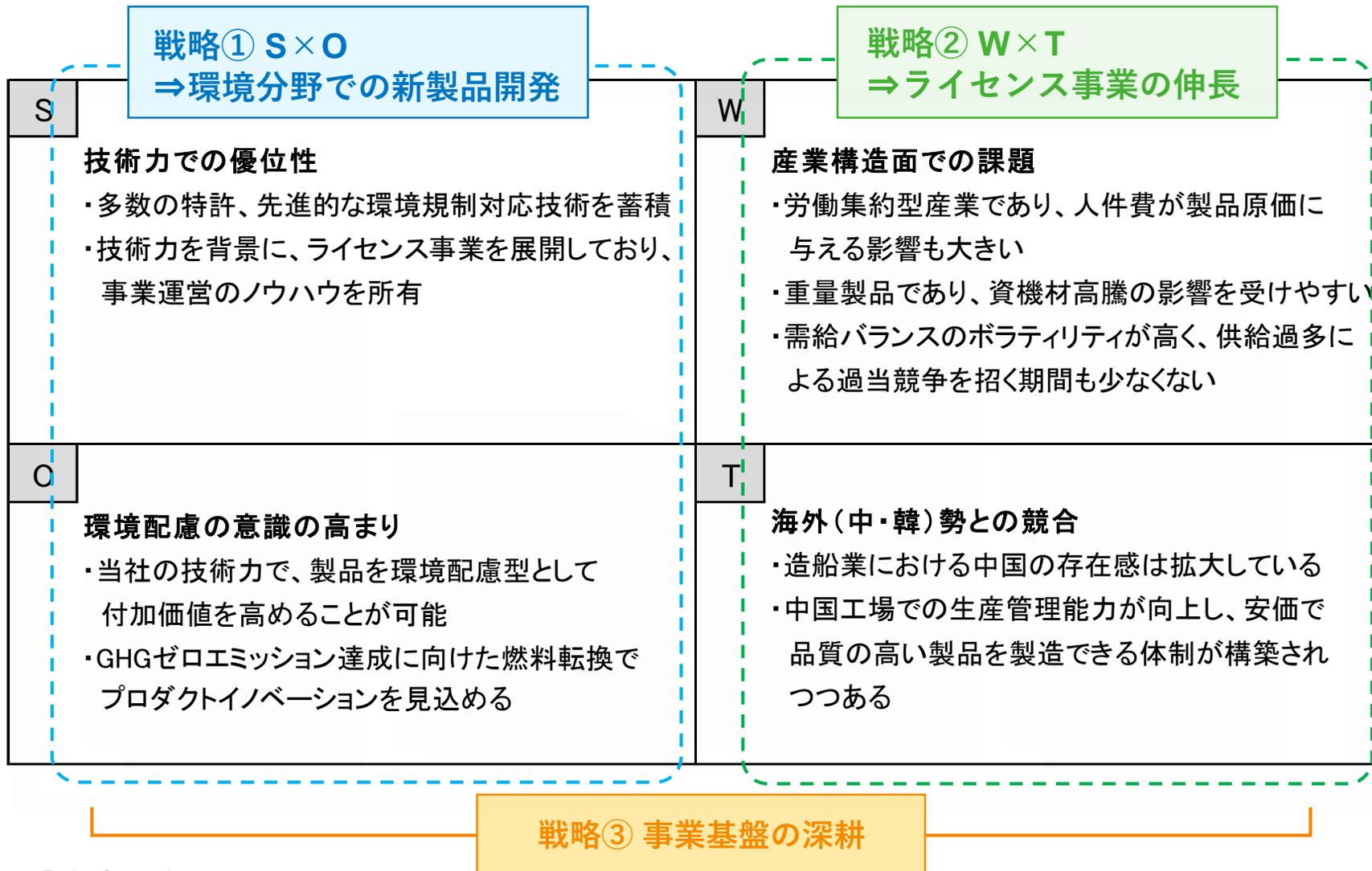
※1次規制（2000年1月1日以降の起工船に適用）比で約80%の削減

### ③ 国別の商船建造シェアが遷転

造船事業での**中国の存在感**が拡大

## 2. 事業戦略（3）SWOT分析

事業環境も踏まえつつ、アクションプラン策定のため、SWOT分析を実施

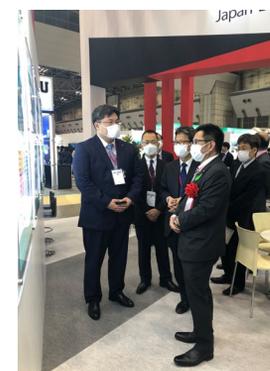
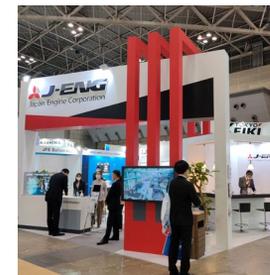


## 2. 事業戦略（4）戦略展開 ロードマップ

SWOT分析に基づく各戦略を、中期事業計画の期間中に推進し、成果を刈取り予定

### 中期事業計画

	2022	2023	2024	2025～
<b>戦略①</b> <b>新製品開発</b>	既存製品の競争力強化 低燃費化、層状噴射エンジン、EGR/SCR拡充 燃料混焼への取組み 脱炭素燃料エンジン（アンモニア、水素）開発 先行投資 開発設計、工場設備改修  ※グリーンイノベーション基金事業継続（2021～）			アンモニア・水素 燃料エンジン 市場投入  重油燃料エンジン からの置換拡大へ
<b>戦略②</b> <b>ライセンス                      事業伸長</b>	新規ライセンシー開拓 GDFへのライセンス供与 事業規模拡大への備え 組織再編、UEトレーニングセンター開設 ライセンシーでの受注/製造支援 50/42LSH連続受注、製造開始 部品供給、アフターサービスへの波及効果刈取り			ライセンス事業 伸長継続  UEファミリーの 更なる受注拡大へ
<b>戦略③</b> <b>事業基盤                      深耕</b>	DX推進 ASシステム高度化、調達システム更新 DX技術の製品への適用推進 社内リソース再配置、組織最適化 連結子会社吸収合併 新職制発足（開発、ライセンス）			システムインテグ レーションによる 自動・自律運航へ



写真上：  
国際海事展 SEA JAPAN  
の当社ブース（2022年4月）

写真下：  
国土交通省 副大臣  
渡辺 猛之様の御視察  
（当社ブースにて）

## 2. 事業戦略 (5) アクションプラン 戦略① 新製品開発

技術力の優位性を活かし、環境分野での新製品開発を加速 (S×O)

環境規制の強化や、環境意識の高まりは、高い技術力を有する当社にとって  
絶好のビジネスチャンス到来

既存製品の競争力強化、新機軸の製品開発で、業界のゲームチェンジを目論む

### UEエンジンの技術戦略

★ 既存製品 (重油燃料エンジン) の競争力強化

★ 新機軸の製品開発



#### NOx規制の対応

EGR (低圧) SCR (高圧、低圧)  
⇒ Tier3へ柔軟に対応

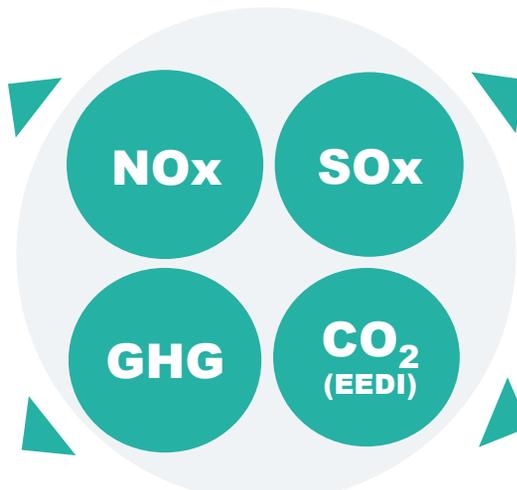
※NOx規制の強化に選択可能な複数の  
オプションを用意



#### GHG削減

アンモニア燃料エンジン UEC50LSJA  
(2025年度 初号機完成予定)  
水素燃料エンジンUEC35LSGH  
(2026年度 初号機完成予定)  
バイオ燃料適用、他

※グリーンイノベーション  
基金事業のご支援下で開発加速



DX



#### デジタルイノベーション推進

IoT/AI活用、状態監視の高度化、  
CBM実現  
⇒デジタルツイン、自律・自動運転



#### 層状噴射エンジン(LSJシリーズ)

UEC50LSJ (2018年度 完成)  
UEC35LSJ (2022年度 完成予定)  
⇒ シリーズ展開中

※燃料油の硫黄分濃度低減に対応  
バイオ燃料との混焼も射程に入れる



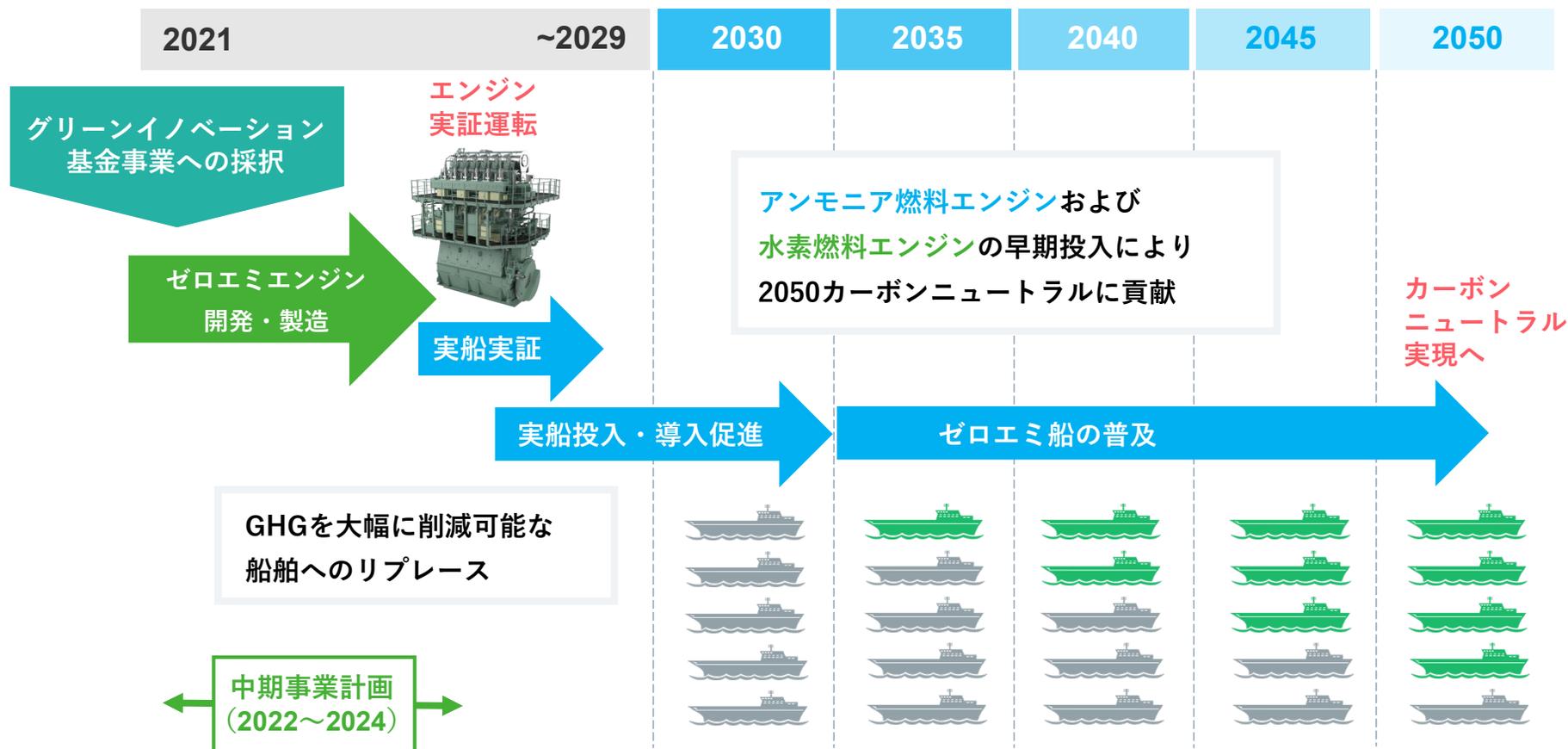
#### 超低燃費エンジン(LSHシリーズ)

UEC42LSH (2021年度 市場投入済)  
UEC33LSH (2022年度 完成予定)  
50LSH/42LSH Ver.4の開発  
(2024年度 市場投入予定)

※船舶の省エネ性能向上を求めるEEDI/EEXI  
規制の発効にも対応

## 2. 事業戦略（5）アクションプラン 戦略① 新製品開発

### 2050年GHG排出削減達成までの工程表とUEエンジンの製品開発戦略





## 2. 事業戦略 (5) アクションプラン 戦略① 新製品開発

### アンモニア燃料エンジンの開発、社会実装

✓グリーンイノベーション基金事業による開発 (2021年度～2028年度)

<アンモニア燃料船の開発・運航の流れ>



中期事業計画  
(2022～2024)

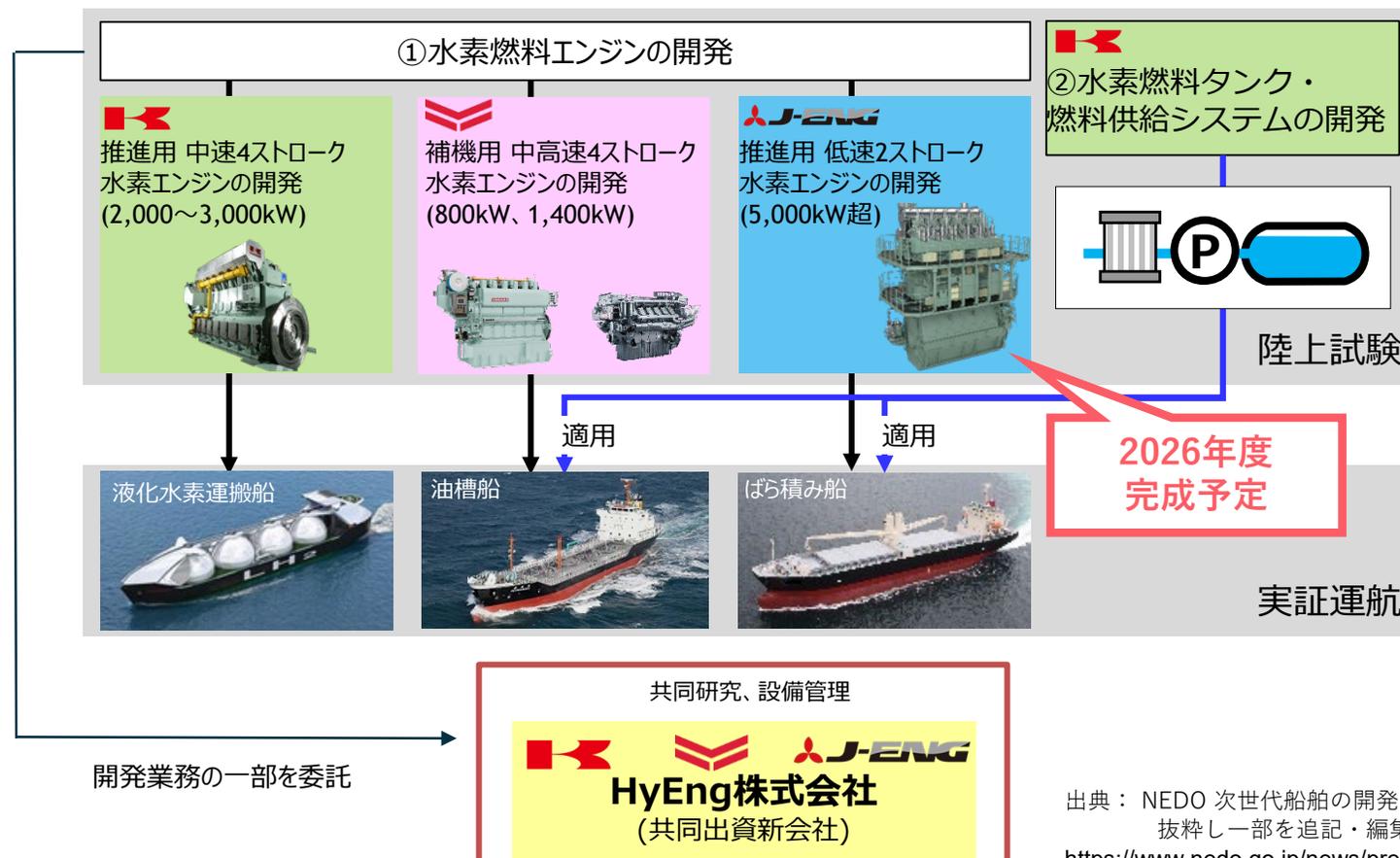
出典：NEDO 次世代船舶の開発 事業概要資料より  
抜粋し一部追記  
[https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5\\_101487.html](https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101487.html)

## 2. 事業戦略 (5) アクションプラン 戦略① 新製品開発

### 水素燃料エンジンの開発、社会実装

✓グリーンイノベーション基金事業による開発 (2021年度～2030年度)

**世界初の水素燃料2ストロークエンジンの玉成を目指す**

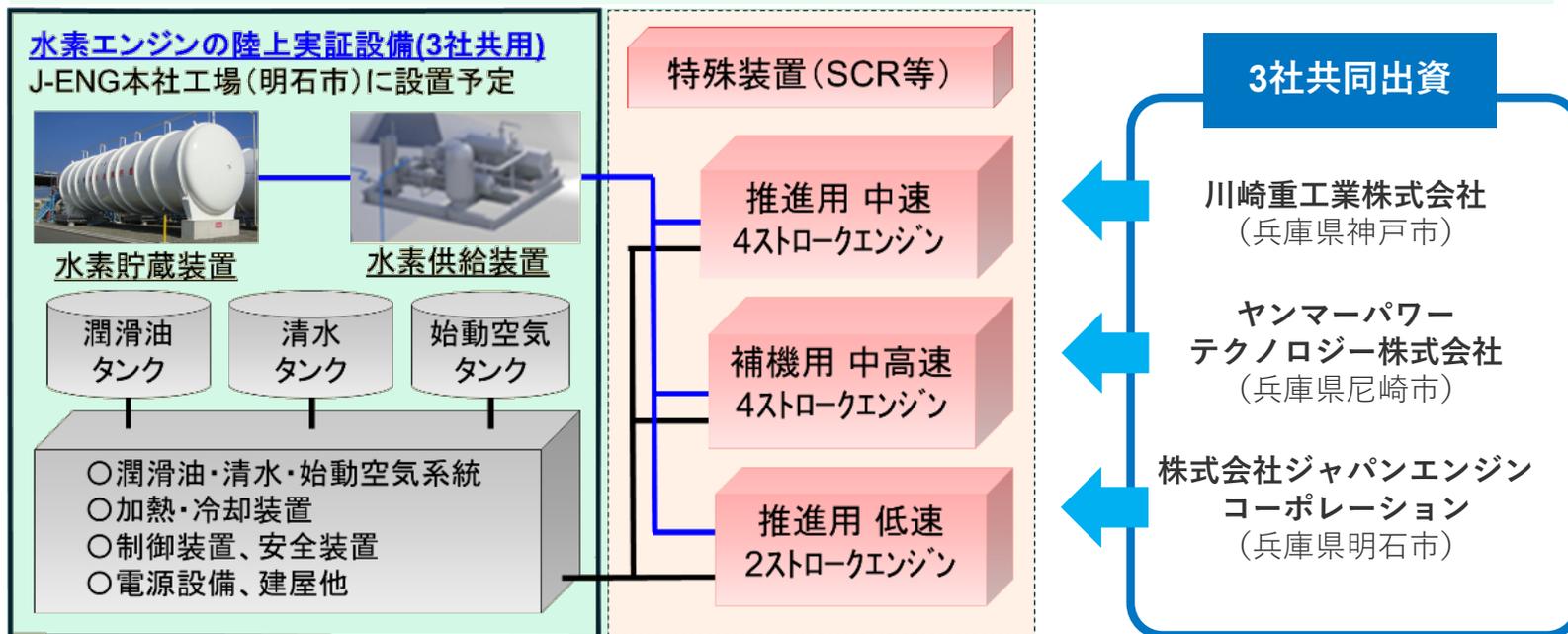


### トピックス：HyEng株式会社設立 (2021年8月 / 3社共同出資の新会社)

同社の事業活動も通じて、船舶用主機・補機や発電用など、様々な用途に対応可能なラインナップを同時並行で完成させるとともに、更に船舶用水素燃料貯蔵・供給装置を加え、水素燃料推進システムを備えたシステムインテグレーションを実現する

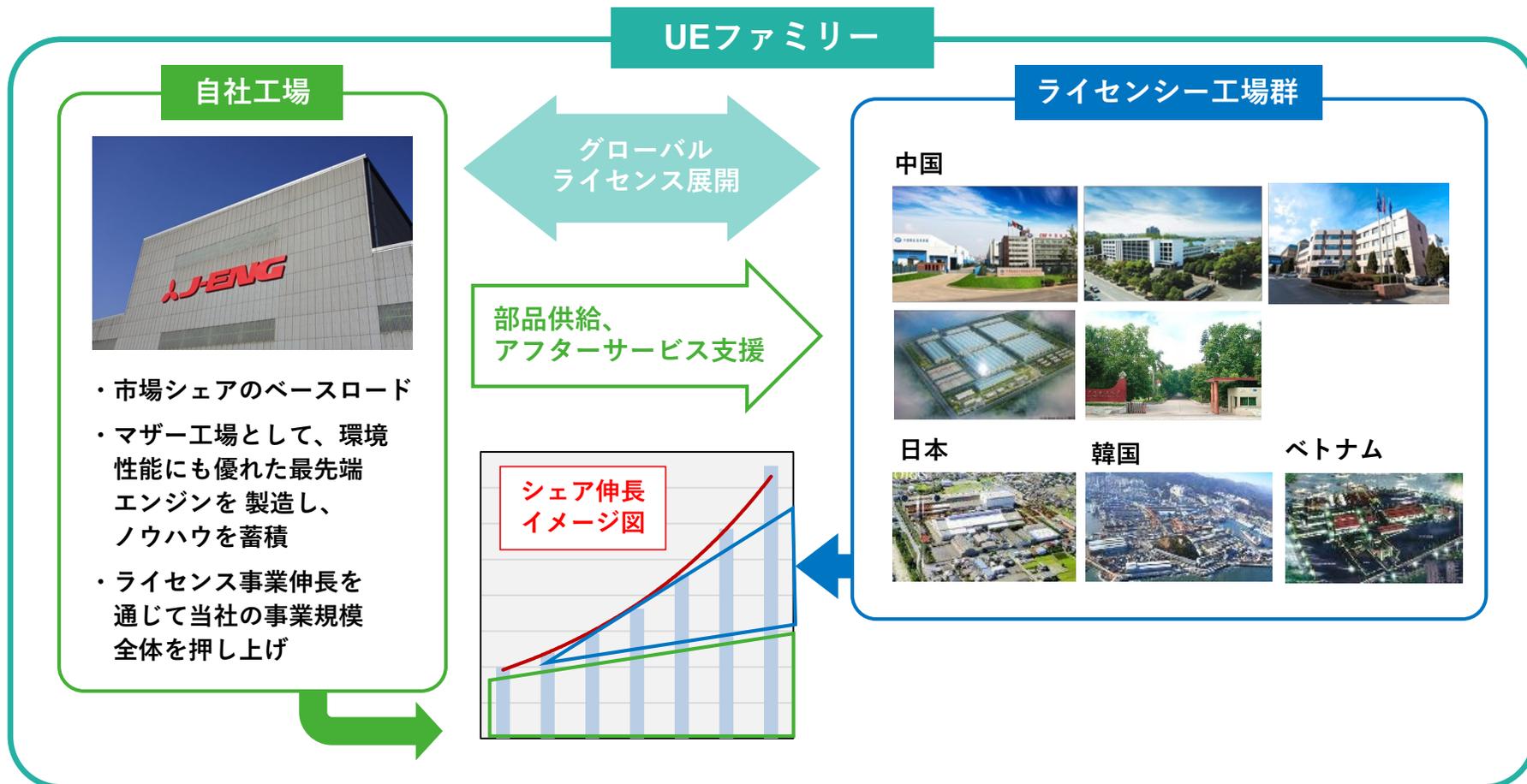
**HyEng**  
株式会社

共通要素技術開発、標準化やルール作りの実施  
水素燃料エンジン陸上運転共用設備の設置と利用  
舶用水素燃料貯蔵・供給装置の同時開発とシステムインテグレーション化



### ライセンス事業の伸長 (W×T)

自社の固定費を抑制しつつ、UEファミリーを梃子にグローバル展開を加速させ、市場シェアを伸長、**UEライセンサーとしての飛躍**を具体化する



## 2. 事業戦略 (5) アクションプラン 戦略② ライセンス事業伸長

### 【ライセンス展開状況】

当社ブランドUEエンジンは海外へもライセンスを供与。GDF社も新たに  
加わり、事業拡大中

#### China

##### CSE

#### China Shipbuilding Industry Corporation Diesel Engine Co.,Ltd

- QMD: Qingdao Haixi Marine Diesel Co., Ltd. (Qingdao)
- YMD: Marine Diesel Engine Co., Ltd. (Yichang)
- DMD: Dalian Marine Diesel Co., Ltd. (Dalian)



新規供与

##### GDF

#### Guangzhou Diesel Engine Factory Co., Ltd.

- Jingjiang Co., Ltd. (Jingjiang)



##### YHM

#### Zhejiang Yungpu Heavy Machinery Co., Ltd.

(Ningbo)



#### Korea

##### HHI

#### Hyundai Heavy Industries Co., Ltd.

(Ulsan)



#### Japan

##### J-ENG

#### Head office & Factory (Akashi)



#### Vietnam

##### BDD

#### Shipbuilding Industry Corporation (SBIC) /Bach Dang Demco

(Haiphong, Vietnam)



##### AKASAKA

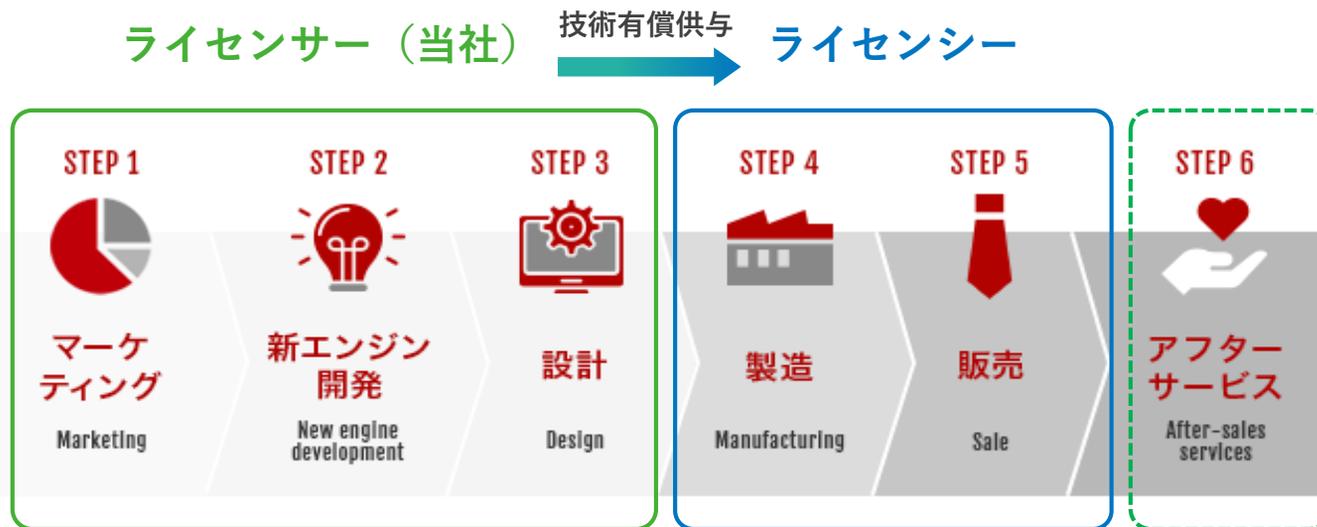
#### Akasaka Diesels Ltd.

(Yaizu)



### 【ライセンス事業の波及効果】

「開発から製造、販売、アフターサービスまでの一貫体制」を梃子に、ライセンス事業を拡大し、ロイヤルティ収入に留まらず、当社業績全体を押し上げていく



ライセンス契約後のアクション事項		当社業績への影響		
ライセンサー（当社）	ライセンシー			
調達支援	エンジン部品をライセンサーから購入	部品供給事業	拡大	↑
受注・製造支援	当社ブランドのエンジンを製造	ロイヤルティ収入	拡大	↑
アフターサービス支援	上記エンジンのアフターサービスを支援	アフターサービス事業	拡大	↑

### 【トピックス：UEトレーニングセンター新設】

講義室、実技実習エリアなどを備え、UEエンジンに関する座学・実技研修などで多用途に利用可能。お客様満足の更なる向上と各種事業の伸長に繋げていく

事業区分	想定される利用内容	
アフターサービス	乗組員 運航管理会社	講義や機器の模擬操作などの実技で船舶の安全運航をサポート
	認定補修会社	エンジン補修技能の講習を開催し、サービス品質を向上 世界各地で常に高品質なサービスを提供
ライセンス	ライセンシー	エンジン製造時の技術サポートを実施 急拡大するライセンス事業の支援体制拡充
主機	今後、アンモニア/水素燃料エンジンのトレーニングにも活用予定	



講義室



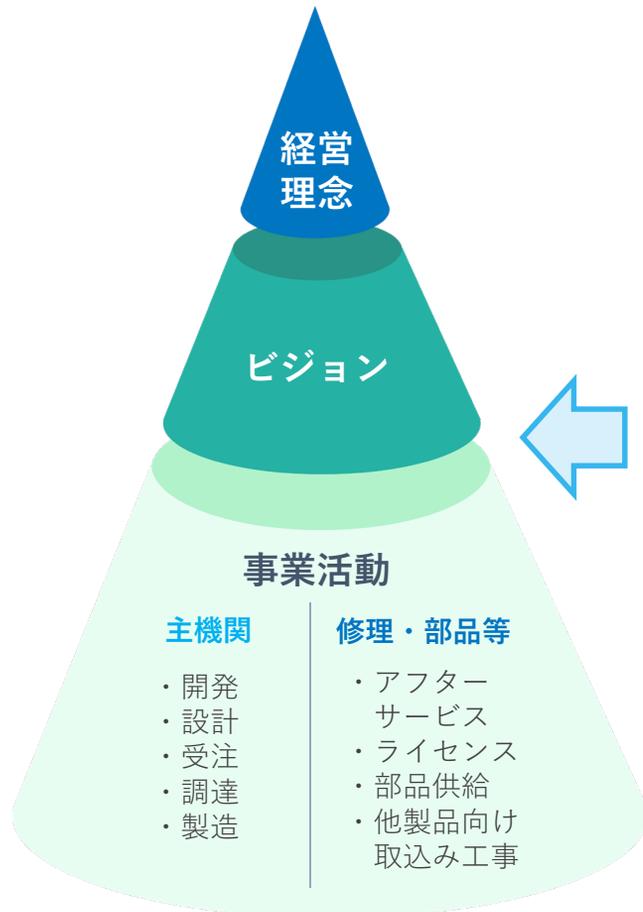
実技実習エリア



実技実習エリア

事業基盤の深耕により収益力を強化、成長分野への投資を下支え

DX推進 ⇒ 社内オペレーション効率化の推進、製品の付加価値向上  
 社内リソース再配置 ⇒ 事業伸長に備えて組織を最適化



		打ち手	期待効果
DX推進	社内	（効率化の推進）	PMIで洗練された社内業務オペレーションをDXで更に効率化 ・ASシステム高度化、調達システム刷新 など
	製品	（付加価値の向上）	IoT/AI活用による新たな価値の創出 ・エンジンの状態監視高度化、CBM(※注)実現 デジタルツイン、自律・自動運転実現 など
リソース再配置	連結子会社吸収合併		エンジン部品の在庫管理・出荷業務を再編 ・AS事業のシステム高度化や、ライセンス事業拡大による部品供給事業伸長への対応
	組織再編	アンモニア・水素燃料エンジン開発推進室	アンモニア/水素の次世代新燃料エンジンを同時並行で開発推進
		ライセンス計画・推進グループ	急拡大するライセンスビジネスに対応し、ライセンス支援業務を一元管理

※注 CBM: Condition Based Maintenance: 状態監視保全

## 【トピックス：UEエンジンのデジタルイゼーションへの取組み】

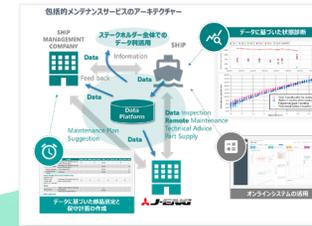
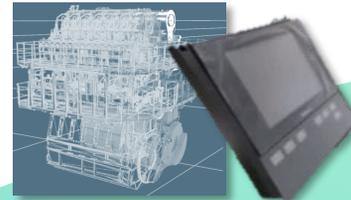
### 船級協会や他社との共同研究などを通じてデジタルイゼーションを推進中

連携中の関係先 (敬称略)

日本海事協会  
日本郵船株式会社  
株式会社MTI

ナブテスコ株式会社

井本商運株式会社



**Bearing temperature monitoring system**  
This system transfer Bearing wear monitoring system

**Cylinder pressure control and monitoring system**  
This system content

**Eco engine waveform monitoring system**  
This system control Analog

This system is installed as an additional system as well as cylinder pressure control and monitoring system, and consists of lift sensors of fuel injection pump / upper exhaust valve driving system, pressure sensor of cylinder lubricator, ASU, HUB unit and PC.

### Eco制御システム 5G

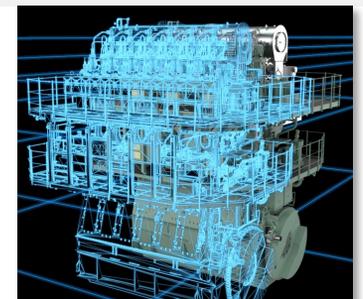
次世代型エンジン制御システムに関する研究に着手

### CBM・モニタリング

実運航状況に応じたメンテナンスに関する研究に着手

### 遠隔監視と状態診断

国土交通省/高度船舶安全管理システムを適用した内航船向けエンジン



デジタルツインをめざす

### Eco制御システム 4G

第四世代制御システム(4G)適用開始

2017.4発足

2018

2019

2020

2021

2022

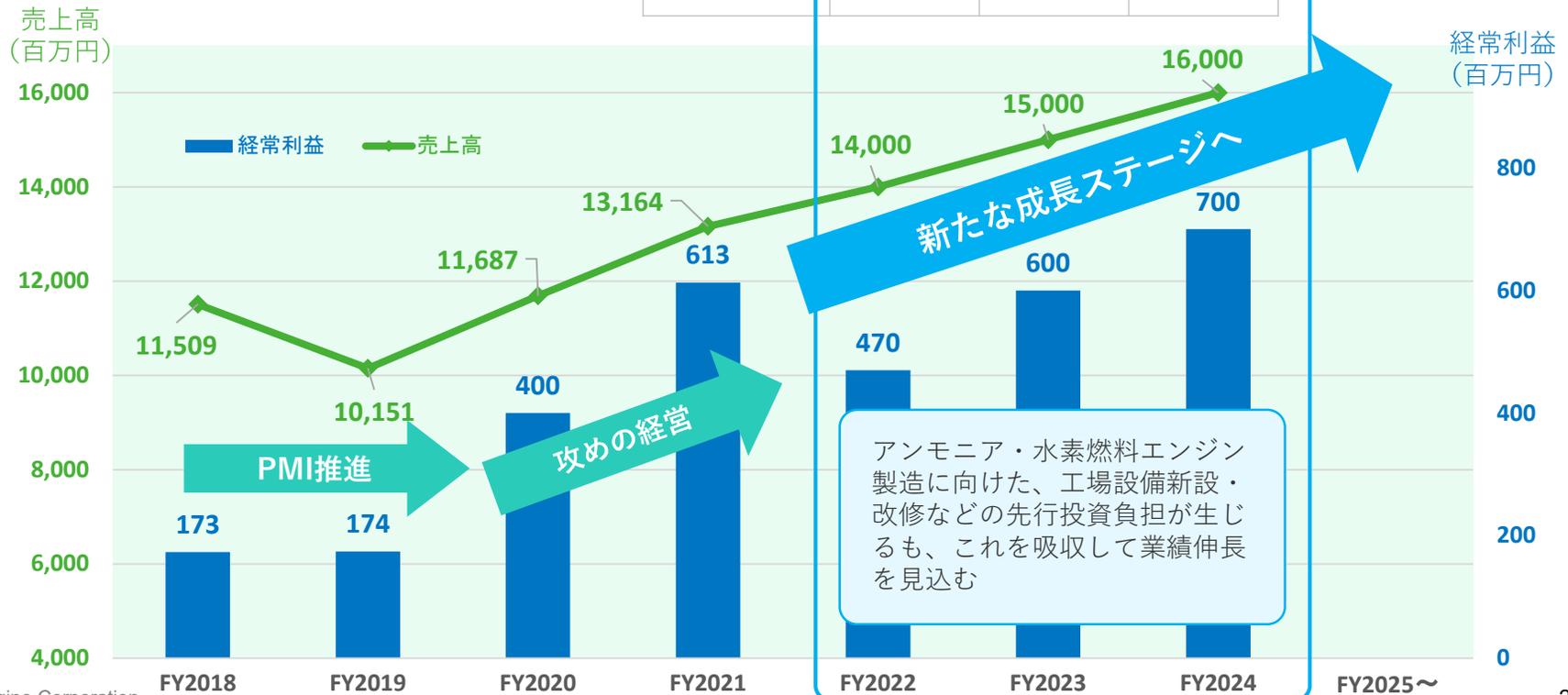
### 3. 業績目標（今後の成長イメージ）

今後の成長分野に対する投資を事業の牽引役とし、更なる業績拡大に繋げていく

- ・ 主機 ⇒ 環境分野  
最新鋭42LSH型機関の受注拡大、ライセンサーとの協業強化 他
- ・ 修理・部品等 ⇒ ライセンス  
新規ライセンス供与、ライセンサーでの受注急拡大 他

中期事業計画（2022～2024）

年度	2022	2023	2024
売上高	14,000	15,000	16,000
経常利益	470	600	700
経常利益率	3.4%	4.0%	4.4%



## 4. ESG経営深化に向けた取組み

### 当社におけるESG経営のコンセプト

当社は、事業を通じて海運・造船業の発展に貢献し、永続的に新たな価値を社会に提供できるように、また、社員が健康で生き活きとして、働き続けられる企業に発展するように、弛まぬ努力と挑戦を続けていく

「世の中から必要とされる持続可能な企業」  
であり続ける

#### E : Environment

##### 企業活動を通じた 地球環境への貢献

- ・ 産出する製品を通じた貢献
- ・ 製造工程における環境負荷軽減

など

#### S : Social

##### より豊かな社会の創造

- ・ 顧客
- ・ サプライヤー
- ・ 株主/投資家
- ・ 従業員
- ・ 国/自治体/業界
- ・ 地域社会

など

#### G : Governance

##### コーポレート ガバナンスの強化

- ・ コンプライアンス遵守
- ・ リスクコントロール強化
- ・ 情報開示推進

など

# 4. ESG経営深化に向けた取組み

## 当社が取り組むSDGsアクション

当社の取組み	貢献するSDGsの目標	該当するESG
<p><b>環境に優しい製品づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GHG(温室効果ガス)削減</li> <li>・NOx(窒素酸化物)、SOx(硫黄酸化物)排出低減などの規制をクリアし、かつ、更なる低燃費を追求した新機種の開発、ラインナップ拡充</li> <li>・MGO専焼エンジンの開発・製造</li> </ul>		E 環境
<p><b>次世代技術の開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素社会実現に向けたカーボンフリー燃料(水素、アンモニアなど)への研究投資</li> <li>・CBM(Condition Based Maintenance)の推進</li> <li>・産学官公連携による共創イノベーションへの継続的な取組み</li> </ul>		
<p><b>海洋ごみ問題への取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋ごみ清掃活動の実施</li> </ul>		S 社会
<p><b>働きやすく、人にやさしい職場環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークライフバランスの取組み</li> <li>・積極的な雇用の展開</li> </ul>		G ガバナンス
<p><b>ステークホルダーとともに</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーンマネジメントの最適化</li> <li>・コンプライアンスの厳守</li> <li>・コーポレートガバナンスの充実</li> </ul>		

# 4. ESG経営深化に向けた取組み

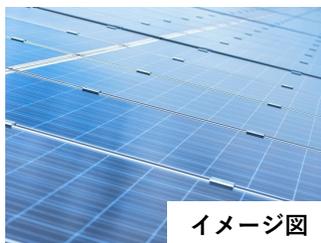
## トピックス **E: Environment**

### ◎製造工程における環境負荷軽減

製品を通じての貢献に加え、製造工程における環境負荷も軽減することで気候変動課題に対する取組みを全方位で強化していく

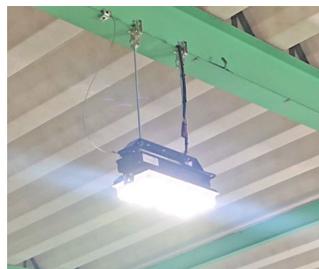
#### ①太陽光発電の導入

当社使用電力の一部を再生エネルギーに転換するべく、Daigasエナジー株式会社と連携し、倉庫と事務所 計4棟の屋上に導入予定です



#### ②工場内天井照明のLED化

天井照明の全換装を進めています。環境負荷軽減と、照度最適化による作業環境向上を実現します



#### ③ISO14001認証取得

ISO9001（品質マネジメントシステム）に加え、ISO14001（環境マネジメントシステム）の取得に向け準備中です



## 4. ESG経営深化に向けた取組み

### トピックス **S : Social**

#### ◎ワークライフバランスの取組み、地域社会の活性化

より豊かな社会の創造を目指し、働きやすく人にやさしい職場環境づくりを進めているほか、地域社会の活性化に向けた取組みも推進中

#### ①女性社員、外国籍社員の活躍

ダイバーシティを深化させていきます



#### ②ヴィッセル神戸とのオフィシャルスポンサー契約締結

地域社会の活性化にスポーツを通じても貢献していきます



#### ③地域清掃活動の定着

海にかかわる企業として、海洋ごみ削減に向けた近隣海岸の清掃活動を継続しています



# 4. ESG経営深化に向けた取組み

## トピックス **G** : Governance

### ◎持続的な発展に向けた企業統治の推進

より豊かな社会の創造を目指し、働きやすく人にやさしい職場環境づくりを進めているほか、地域社会の活性化に向けた取組みも推進していく

#### ①各種研修の実施

定期的に開催することで意識付けが進んでいます



#### ②健康経営優良法人認定取得

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組む姿勢を評価頂きました



#### ③防災・減災活動 製造技量の底上げ

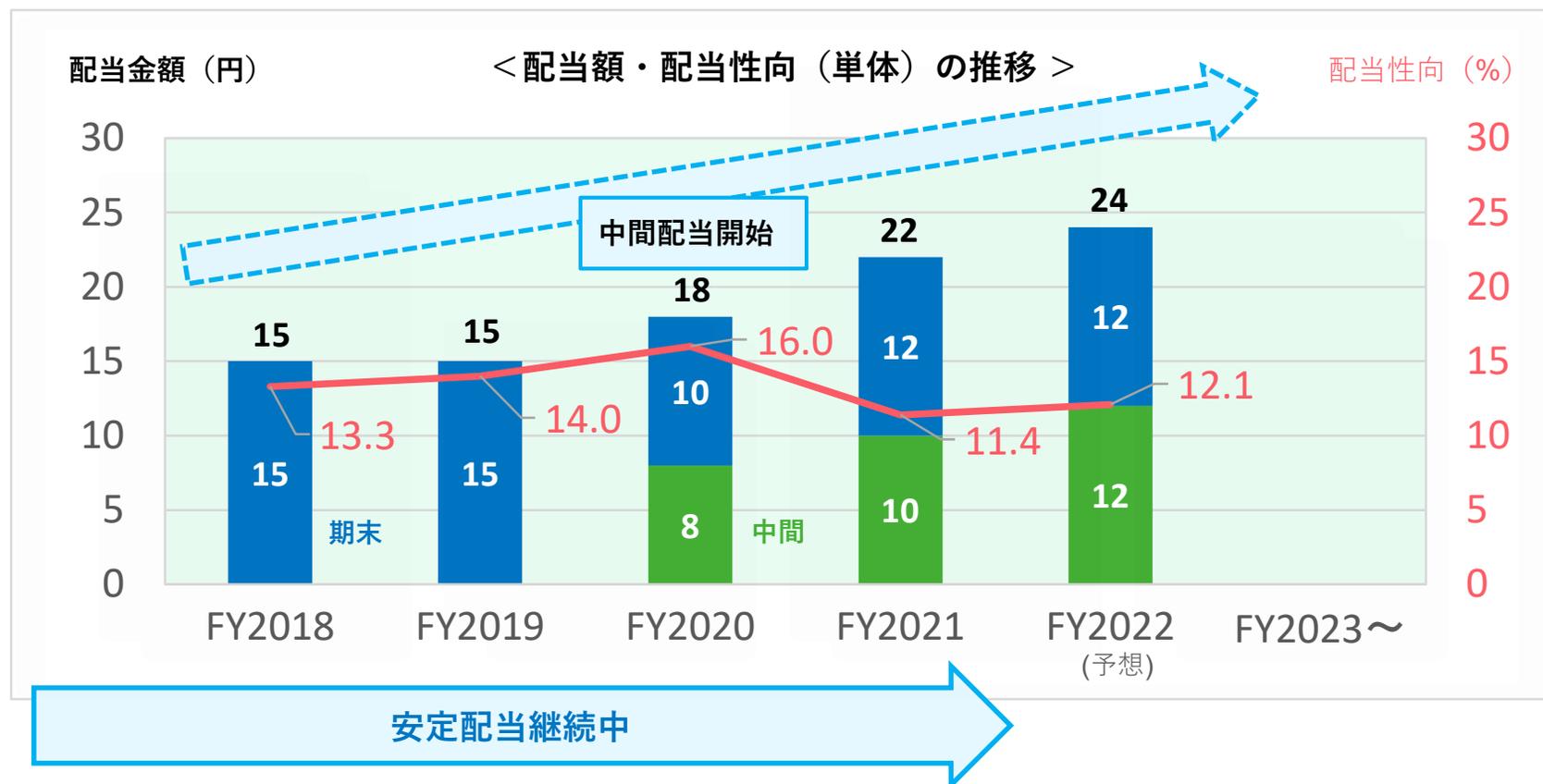
上：消火訓練  
下：社内技能競技大会  
「ものづくり力」を磨いています



# 5. 株主還元

## ◎安定配当の継続

事業伸長に向けた攻めの資本も確保するべく、当面は、配当性向10%以上を目安に安定配当を継続予定



# 6. (参考) 会社概要

## 会社概要

(2022年3月31日現在)

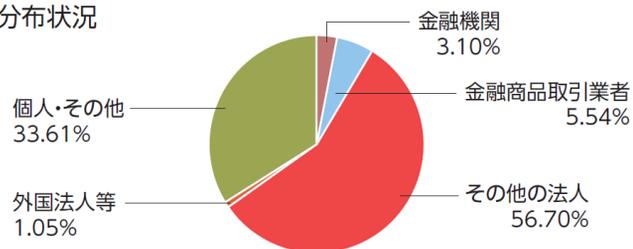
創 立	1910年11月	合名会社神戸発動機製造所
改 組	1920年 6月	株式会社神戸発動機製造所
社 名 変 更	1952年 6月	神戸発動機株式会社
	2017年 4月	株式会社ジャパンエンジン コーポレーション (現社名)
資 本 金	2,215,000,000円	
本 社 及 び	兵庫県明石市二見町南二見 1 番地	
本 社 工 場	電話 078-949-0800(代)	
事 業 所	東京支社 (東京都港区)、今治営業所 (愛媛県今治市)	
ホームページ	<a href="https://www.j-eng.co.jp/">https://www.j-eng.co.jp/</a>	

## 株式の状況

(2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	4,000,000株
発行済株式の総数 (自己株式 5,020株を含む)	2,800,000株
株主数	1,833名

### 株式の分布状況



## 大株主一覧 (上位10名)

(2022年3月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
三菱重工業株式会社	414	14.83
株式会社名村造船所	280	10.01
株式会社シーケービー	159	5.69
株式会社カナックス	145	5.20
株式会社新来島どつく	124	4.45
株式会社商船三井	99	3.56
株式会社赤阪鐵工所	75	2.68
浜 口 誠 昭	73	2.64
株式会社山田クラブ21	71	2.56
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	53	1.92

(千株未満切捨て)

## 役 員

(2022年3月31日現在)

代表取締役社長	川 島 健
常務取締役	進 藤 誠 二
取 締 役	岩 永 修
取 締 役	柴 田 健
取締役 (社外)	竹 内 郁 夫
取締役 (社外)	辻 本 謙 一
取締役 (社外)	黒 瀬 久 敏
監査役 (常勤・社外)	松 井 克 人
監査役 (社外)	藤 田 正 樹
監査役 (社外)	有 田 朗



1, Minamifutami, Futami-cho, Akashi, Hyogo Pref., 674-0093, Japan

<https://www.j-eng.co.jp/>

< IRに関するお問い合わせ >

電話番号 : 078-949-0800 / Eメール : [pr\\_info@j-eng.co.jp](mailto:pr_info@j-eng.co.jp)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により、記載されている内容とは、大きく異なる結果となる可能性がございますこと、ご承知置きくださいます様、お願い申し上げます。

※本資料に記載の金額は、表示単位未満の端数を、四捨五入・切捨て等で調整して表示しております。